




シラバス参照

タイトル「2020年度シラバス」、フォルダ「経済経営学類」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	問題探究セミナー I		
担当教員	藤原 遥		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	経:D
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位区分	必修
授業形態	演習	単位数	2
備考			
特修プログラム		ナンバリング	g3310010
教育目標との関係 (DPポイント配分)	基盤教育 基盤教育	最新の専門知識及び技術	20 %
		本質を見極めるための教養と学際性	20 %
		協働的な問題探究	30 %
		社会の改善につなげる創造性	20 %
		市民としての主体的態度	10 %
授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> ICT機器の活用		
授業概要とねらい	<p>本演習は、スタートアップセミナーで修得したアカデミックスキルズをブラッシュアップするとともに、自ら課題を発見、探求、調査する能力を身につけることを目的とする。</p> <p>前半は、グループごとに選択した文献の内容について報告したうえで、全体で討論をする。後半からは、グループに分かれて資料収集や整理を行う。各グループでテーマを設定し、グループメンバーはそのテーマに即して問いを立て、各自レポートを作成する。</p>		
単位認定基準	<p>積極的に討論に参加することができる。</p> <p>自ら課題を発見し、探求することができる。</p> <p>基礎的なアカデミックスキルズを身につけ、実践することができる。</p> <p>④メンバーと協働し、課題に取り組むことができる。</p>		
授業計画	<p>第1回: 文献①の第1章、第2章 第2回: 文献①の第3章、第4章 第3回: 文献①の第5章、第6章 第4回: 文献①の第7章、第8章 第5回: 文献①の第9章、第10章 第6回: グループワーク(テーマの設定) 第7回: グループワーク(資料収集) 第8回: グループワーク(資料整理) 第9回: グループワーク(問いの設定) 第10回: グループワーク(レポートの構成) 第11回: グループ1、2のメンバーによるレポートの報告 第12回: グループ3、4のメンバーによるレポートの報告 第13回: グループ1、2のメンバーによるレポートの報告 第14回: グループ3、4のメンバーによるレポートの報告 第15回: 全体総括</p>		
教材・教科書	八木信一・関耕平著(2019)『地域から考える環境と経済』有斐閣。		
参考図書	特に指定しない		
参考URL			
授業以外の学習	授業中に指示した課題を行う。 レポートを書くために必要な情報を収集する。		
成績評価の方法	出席、報告の内容、議論への参加姿勢により総合的に評価する。		

成績評価の基準	(S)単位認定基準を満たし、極めて高い水準に達している(90～100点) (A)単位認定基準を満たし、高い水準に達している(80～89点) (B)単位認定基準を満たし、望ましい水準に達している(70～79点) (C)単位認定基準を満たす最低限の水準に達している(60～69点) (F)単位認定基準を満たしていない(59点未満)
オフィスアワー	授業開始・終了後。授業時間外の場合はメール等で事前予約が必要となる。メールアドレスは初回の授業で提示する。
授業改善・工夫	学生の主体的な参加、および学生とのコミュニケーションを重視する。
留意点・注意事項	
教員の実務経験の有無	



Copyright (c) 2004-2011 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.